


**研究者総覧：衣川隆生 (KINUGAWA, Takao)**

氏名	衣川隆生 (KINUGAWA, Takao)	
職名	准教授	
所属講座	日本語文化専攻日本語教育方法論講座	
学位（専攻分野）	修士（学術）・名古屋大学	
メールアドレス	<a href="mailto:kinugawa@ecis.nagoya-u.ac.jp">kinugawa@ecis.nagoya-u.ac.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/staff/kinugawa.html">http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/about/staff/kinugawa.html</a>	
研究分野	日本語教育方法論	
	学習者オートノミー	
現在の研究テーマ	言語産出活動におけるモニタリングの基準の意識化と精緻化	
所属学会	日本語教育学会	
	全国語学教育学会	
主要著書・論文	衣川隆生・金原奈穂(2008)「モニタリングの基準の確立を目標とした口頭発表技能養成の授業」『言語文化論集』第29巻第2号, p.331.	
	衣川隆生(2009)「自律学習能力の顕在化を目指したコース運営——模擬面接と学習経過報告を通して」『名古屋大学日本語・日本文化論集』第16号, p.79-97, 名古屋大学留学生センター.	
	衣川隆生(2009)「メタ認知知識の外言化がもたらすもの——モニタリングの基準の意識化と内在化を目指して」『日本語教育の過去・現在・未来 第3巻 教室』凡人社, p.69-93.	
	衣川隆生(2009)「自律学習を顕在化させるための学習環境デザイン」『第18回小出記念日本語教育研究会論文集18』, p.116.	
	衣川隆生(2010)「モニタリングの基準の意識化を促進させるための協働学習のあり方」『日本語教育方法研究会会誌』, Vol.17, No.1, p.36-37.	
自己紹介文	<p>これまで、日本国内の大学、日本語学校、そして地域の日本語教室で日本語教育に関わる仕事をしてきました。また、海外の大学や語学学校でも日本語教育に携わってきました。そこで感じたことは、自分に合った学習方法を知っていて、それを効果的に使える学習者はどんな学習環境にあっても、日本語の習得が進むということです。右の写真の『教室』という本の第二部では、教育現場における私個人の能力観、学習観、教育観の変遷を紹介しています。</p> <p>それらの経験から、効率的な学習者が使用している学習ストラ</p>	

	<p>テジーはどのようなものか、そして、そのような学習ストラテジーを身につけるために、語学教師はどのような学習支援ができるのかに興味を持つようになりました。</p> <p>現在は、学習ストラテジーの中でも特にメタ認知ストラテジー、そして、学習者オートノミーに興味を持っています。学習者オートノミーとは、学習者が自身の課題やニーズを意識し、それに基づいて到達目標や学習計画を立案し、計画を遂行し、その結果を評価しながら、再度到達目標や学習計画を再計画する能力を指します。どのような学習環境を提供すれば、そして、どのような学習支援をすれば学習者オートノミーが促進できるのか。今はそれを実現するためのコースデザイン、教室活動に焦点を当てたアクション・リサーチを中心に行っています。</p> <div data-bbox="1054 322 1299 645" data-label="Image"> </div> <p>『日本語教育の過去・現在・未来 第3巻 教室』</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>現場で日本語を教えている教師の中には、なぜうまく行かないのだろう、こうすればもっと習得が進むのではないか、という疑問を感じながら日々の教壇に立っている方も多いのではないのでしょうか。私自身、海外や国内の日本語教育機関で日本語教師として働きながら様々な疑問を感じていました。その疑問に対する答えを探してみたいと思い、大学院の門をたたきました。教育というのは一人一人個性のある人間を相手にしているわけですから、誰にでもどこでも通用するベストな方法は存在しません。ただし、学習者個々人にとって、よりよい方法はあると思います。そのような方法を考えるのが教育方法論だと考えています。現役の学部生の皆さんもちろんですが、このような問題意識を持った現職の日本語教師の皆さんも大歓迎</p> <div data-bbox="868 1576 1299 1832" data-label="Diagram"> </div> <p>教室での学習活動と実践共同体における実践を結びつける教室</p>

です。教室や学習環境を構成する要因にはどのようなものがあるか、そして、どのような要因が学習を促進し、どのような要因が阻害するのか。学習を促進する環境を作り上げていくために教師はどのような支援ができるのか。こんな疑問点を感じている方は、ぜひ一緒にその要因について一緒に考えてみましょう。